



令和7年8月25日
病院局経営管理課
043(223)3959

令和6年度病院事業会計の決算見込みについて

令和6年度病院事業会計の決算は、総収益が556億8千万円、総費用が614億6千万円、この結果、純損失は▲57億8千万円となり、11年連続の赤字かつ過去最大の赤字幅となりました。

医業収益は前年度とほぼ同額を確保したものの、給与費や委託費など費用の大幅な増加により収支が悪化し、一般会計から27億円の運転資金を借り入れることで資金不足を回避しました。

今後も、物価や賃金の上昇傾向は続くことが見込まれ、経営状況は厳しさを増していくものと考えており、大幅な収支改善が見込めない場合、運転資金の安定的な確保が困難になることが想定されるため、県としては、令和7年3月に策定した「千葉県立病院経営強化プラン」に基づき、全病院一丸となり、これまで以上に収益確保や経費削減など経営改善の取組を強化してまいります。

【決算見込みの概要】

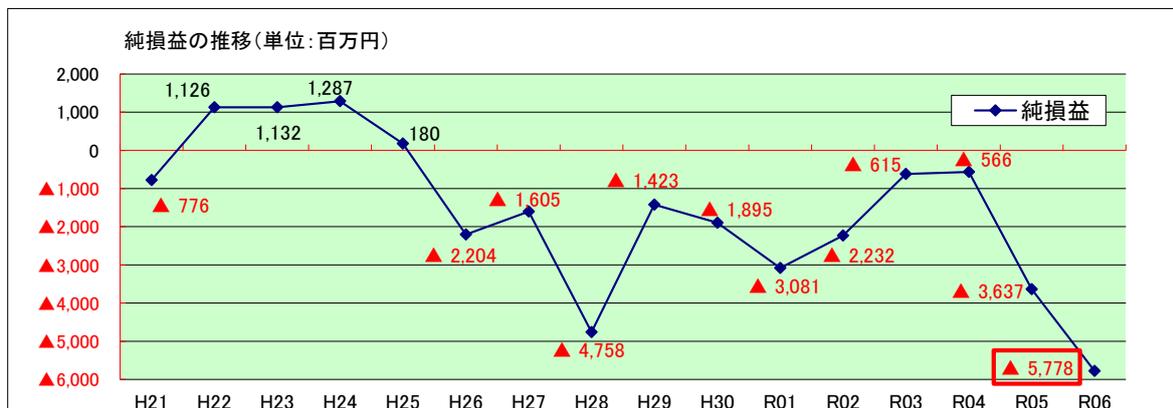
令和6年度の医業収支は前年度に比べ34億259万円悪化し、▲193億8,297万円となり、経常収支も前年度に比べ27億1,709万円悪化し、▲55億2,932万円となりました。特別損益が+5億7,792万円となったことから、当期の純損失は、57億7,750万円と過去最悪の水準となり、11年連続の赤字決算となりました。

入院患者数が増加し、入院収益がこども病院と循環器病センター以外の3病院で増加したことなどから、医業収益が1億1,759万円増加しました。また、一般会計からの繰入金が増加したことなどから、医業外収益が7億2,807万円増加しました。一方、昨年度計上されていた救急医療センター及び精神科医療センターの閉院に伴う長期前受金の戻入が、今年度は無かったことなどから、特別利益が10億9,741万円減少しました。これらにより、収益合計は前年度に比べ2億5,175万円減の556億7,999万円となりました。

支出は、給与改定に伴う給与費の大幅増や経費の増などにより医業費用が35億2,019万円増加し、また、受託研究費の増加などにより医業外費用が4,256万円増加した一方で、昨年度計上されていた救急・精神の2病院の閉院に伴う減損損失が今年度は無かったことなどから、特別損失が16億7,533万円減少し、費用合計は前年度に比べ18億8,742万円増の614億5,749万円となりました。

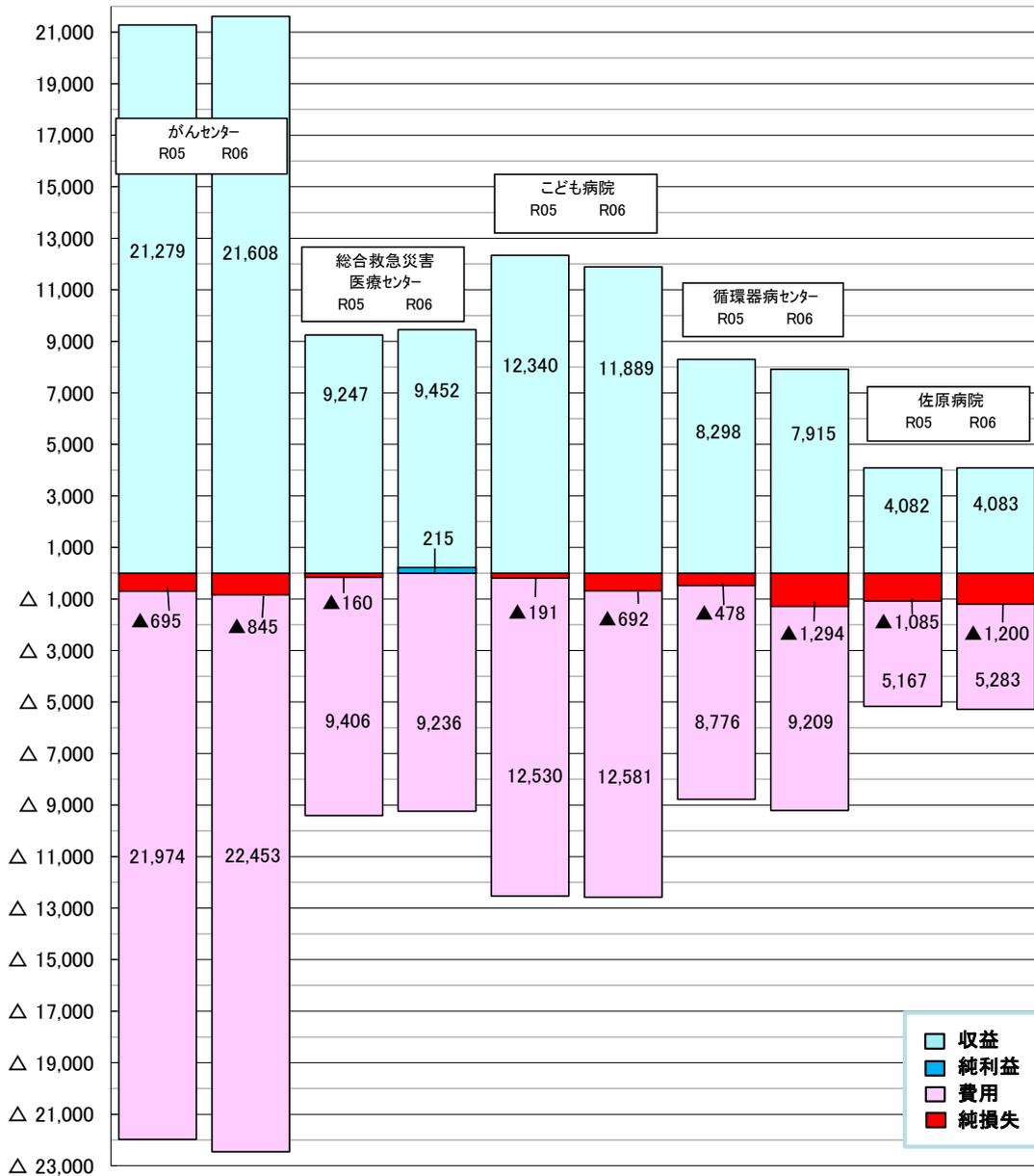
(単位：千円)

区分	令和6年度	令和5年度	増減額	増減率(%)
医業収益 A	38,173,643	38,056,049	117,594	0.3
医業外収益 B	17,491,307	16,763,239	728,068	4.3
特別利益 C	15,041	1,112,452	▲1,097,411	▲98.6
収益計 ①(A+B+C)	55,679,991	55,931,740	▲251,749	▲0.5
医業費用 D	57,556,611	54,036,422	3,520,189	6.5
医業外費用 E	3,637,656	3,595,096	42,560	1.2
特別損失 F	263,226	1,938,552	▲1,675,326	▲86.4
費用計 ②(D+E+F)	61,457,493	59,570,070	1,887,423	3.2
経常収支 (A+B)-(D+E)	▲5,529,317	▲2,812,230	▲2,717,087	
純利益(損失) ①-②	▲5,777,502	▲3,638,330	▲2,139,172	



病院別損益の前年度比較（単位：百万円）

	がんセンター	総合救急災害医療センター	こども病院	循環器病センター	佐原病院
経常損益	▲835	+215	▲676	▲1,064	▲1,201
純損益	▲845	+215	▲692	▲1,294	▲1,200



- がんセンターは、入院患者数の増加により医業収益が増加（+150百万円（15,278百万円→15,428百万円））し、一般会計負担金の増加（+242百万円）により医業外収益も増加（180百万円（5,998百万円→6,178百万円））したものの、給与改定等に伴う給与費の増加（+757百万円）、外来患者の入院移行の取組や薬価改定等による材料費の減少（△331百万円（6,437百万円→6,106百万円））などにより医業費用が増加（+387百万円（20,626百万円→21,013百万円））し、純損失は増加（△151百万円）した。
- 総合救急災害医療センターは、診療単価が上昇したことなどにより医業収益は増加（+489百万円（4,869百万円→5,358百万円））し、固定資産増加に伴う長期前受金戻入の増加などにより医業外収益も増加（+824百万円（3,269百万円→4,094百万円））し、純利益を計上（+375百万円）した。
- こども病院は、高額薬品の使用実績の減少などにより医業収益が減少（△427百万円（8,933百万円→8,506百万円））し、新型コロナウイルス感染症対策等の補助金の減少（△74百万円）などにより医業外収益も減少（△26百万円（3,407百万円→3,380百万円））し、給与改定等に伴う給与費の増加（+288百万円）などにより医業費用が増加（+152百万円（11,787百万円→11,939百万円））したため、純損失が増加（△502百万円）した。
- 循環器病センターは、診療単価の上昇があったものの、患者数の減少により医業収益は減少（+244百万円（5,920百万円→5,676百万円））し、新型コロナウイルス感染症対策等の補助金の減少（△227百万円）などにより医業外収益が減少（△141百万円（2,378百万円→2,237百万円））し、給与改定等に伴う給与費の増加（+213百万円）などにより医業費用が増加（+298百万円（7,976百万円→8,274百万円））したため、純損失が増加（△816百万円）した。
- 佐原病院は、患者数が増加したことにより医業収益が増加（+150百万円（3,056百万円→3,206百万円））した一方で、新型コロナウイルス感染症対策等の補助金の減少（△123百万円）などにより医業外収益が減少（△148百万円（1,025百万円→877百万円））し、給与改定等に伴う給与費の増加（+154百万円）により医業費用が増加（+117百万円（4,975百万円→5,130百万円））したため、純損失が増加（△115百万円）した。

【参考】 経営改善に向けた取組

令和7年3月に策定した千葉県立病院経営強化プラン（計画期間：令和7年度から令和10年度）では、良質で安心・安全かつ患者満足度の高い医療の提供を重視しつつ、早期に経営改善を実現するため、各病院一丸となり、一層、患者数の増加による収益増及び費用の節減に努めるとともに、引き続き本県の医療提供機能において重要な役割を果たすために、全力で取り組んで行くこととしています。

○千葉県立病院経営強化プランを踏まえた令和7年度の主な取組

1 収益確保

- ・新規患者の獲得による収益確保
単価増について取り組む一方、新規患者の獲得（地域の医療機関に対する訪問や患者受け入れに係る関連部署の業務改善）による入院患者数増、医業収益増を図る。
- ・DPCコーディングの調査検証
診療収入を増収させる観点からDPCコードの付与状況を検証する。

2 経費削減

- ・固定経費の節減（委託費を中心とした費用削減）
 - 仕様の見直し（競争性の確保）
- ・材料費（医薬品・診療材料）の節減
 - ベンチマークを活用した価格交渉の継続
 - 調達方法の見直し（入札方法、アウトソーシングの活用等）

3 業務効率化

- ・病院の業務運営体制の実態把握と評価を行い、業務手順の見直しと職員配置体制の適正化を図る。

4 継続的な経営改善

- ・上記の取組を病院で継続的に実施できるよう、外部人材を活用
- ・PDCAサイクルを徹底し、経営改善を図る。